

お話のせかいに入って音読げきをしよう

「お手紙」

アーノルド・ローベル作

めあて

「お手紙」の世界に入って、「なりきり音読げき
はっぴよう会」を開こう。

【はっぴよう会のながれ】

① 音読げきのはっぴよう(10分)

② ほめほめカードに書く(2分)

③ ほめほめタイム (3分)

【やくそく】

★はっぴようするとき

- ・ 友だちに聞こえるこえで
- ・ 気持ちよこめて(なりきって)
- ・ ひょうじようゆたかに

★聞くとき

- ・ はっぴようしゃのほうを見て
- ・ じようずな読みかたをさがしながら

★ほめほめタイム

- ・ よかったところ
- ・ アドバイス

【分かったこと・できたこと】

記入例

- ・ がまくんの気持ちを考えながら読むことができた。
- ・ 会話文のところは、あいてを見ながら音読することができた。
- ・ かたつむりくんの会話文は少なかったけど、ゆっくりしたうごき方をくふうした。

【9, 10/11時間目 指導略案】

使用するワークシート(音読げきはっぴよう会のすすめ方・ほめほめカード)

※ クラスの人数によっては、一時間で終わる場合もあります。活動のねらい

読み取ったことを生かしながら、音読劇をしたり友達の発表を聞いたりできるようにする。

1 本時のめあてを知る。

○ 登場人物になりきり気持ちをこめて音読することを確認させる。

2 発表会の流れと約束事を確認する。

○ グループ終わるごとに、「ほめほめタイム」を設けることを確認する。

※ 発表を聞きながら、友達の良かった点などをワークシートに記録することを知らせる。

※ 声の大きさをばかりに偏る評価ではなく、心情に即した抑揚のある読み方ができているかという点に目を向けて評価をさせるようにします。

3 発表会を開く。

○ 「発表」→「ほめほめカードに良かったところを記入」→「ほめほめタイム(感想交流)」という流れで進めていくことを確認させる。

※ 全員参加型の発表会にするために、感想を述べる順番も決めておくという方法もあります。良かった点、アドバイスするべき点などが見付けやすいように、見る観点を板書し、児童が持つ評価のカード「ほめほめカード」にも同じものを書いておきます。

※ 「ほめほめカード」の記入は、前時に話合いで決めた自分の読む場面についてのみさせ、作業が複雑にならないようにします。そうすることで、全ての児童が評価してもらうことができます。

※ 「ほめほめタイム」では、児童のよい点を教師からも発表し、その点を他の児童にも意識させながら発表させたり聞かせたりするようにします。

評価 進んで音読劇をしたり、友達の音読のよいところを探しながら聞いたりしている。

(ア-2)

4 本時の学習での振り返りをする。

※ 相手を意識し、気持ちよこめて音読することができたか、表情を変えたり動作を付けたりしながら音読することができたか、また、友だちの工夫した読み方を見つけたかなどをワークシートの振り返り欄で確認します。